

# 3分で読める 医療安全ニュース 9期/11号

## コミュニケーションテクニック、SBAR(エスバー)+C?

**S**ITUATION  
状況

「患者に何が起きているのか？」

**B**ACKGROUND  
背景

「患者の臨床的背景は？」

**A**SSessment  
評価

「問題に対する自分の答えは？」

**S**BAR  
Team steps®

**R**ECOMMENDATION & REQUEST  
提案と依頼

「問題に対する自分の提案は？」

「だから何をしてほしいのか？」

RESILIENT + MEDICAL  
MEDICAL SAFETY SYSTEM

<https://resilient-medical.com/medical-safety/team-steps> HPより.2019/05/15.



<https://www.irasutoya.com/> いらすとや HPより.2019/5/15.

### ● 救急患者さんをできるだけお断りしない

1. 現在、総合病院のプロジェクトチームで取り組んでいる課題のひとつです。救急患者さん、つまり、急性期の患者さんが増加するとこれまで以上に状態の変化に応じた報告・連絡・相談が必要になる場面を経験する可能性は高くなりそうです。

2. そのような状況の中、急性期の患者さんだけでなく、**緊急を要する患者さんの状態について注意喚起し、対応が必要である重要な情報を伝えるためのテクニック**のことをその頭文字をとって **SBAR(エスバー)**と呼びます。患者さんだけでなく突発的な緊急事態でも応用可能です。

### ● SBAR(エスバー)+C で伝達する項目<sup>1)</sup>と具体的内容例

#### 1. Situation(状況) : 患者に何が起きていますか？

・自分の所属と名前、場所と患者フルネーム、状態、いつ何が起きたか。  
「6階西の〇〇です、601号室の医真太郎さんについて電話しています、主訴は初発の息切れです」

#### 2. Background(背景) : 臨床的背景と状況は何ですか？

・入院時の病名、経過、バイタル、投与薬剤、アレルギー、観察状況、など背景情報。  
「腹部手術後1日目の62才男性です、心疾患や肺疾患の既往はありません」

#### 3. Assessment(評価) : 何が問題だと思いますか？

・問題に対する自身の評価、自分が不安や心配に思うこと、など。  
「胸部の痛みが確認され、右側の呼吸音が低下しています、気胸を否定したいのですが」

#### 4. Recommendation and Request(提案と依頼) : それを解決するには何をすればいいですか？

・処置・検査など必要と思うことを提案する、やって欲しいことを要望する。  
「先生の診断が必要です、できるだけ早く診察に来て下さい！」

#### 5. Confirm(復唱して確認) : 口頭指示があれば復唱して確認する

「胸部ポータブルの準備をしておく、よろしいですね」

### ● 意識することが大切です

1. 急にやろうとしてもうまくいかないかもしれませんが、部署間、部署内で伝達するとき、日常からSBARを意識するようになっておくと緊急時でも出来るようになります。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記ヘサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。

1)国立保険医療科学院 安全科学室 チーム STEPPS ポケットカード.2010年10月.より引用・改変.